

地域ネットワークニュース

電話0299(93)0294

e-mail mail@kamisushakyo.com

http://www.kamisushakyo.com

第131回
勉強会

自分の支援を振り返ろう ～ケアマネの理想と現実～

2回連続
講座

神栖ケアサポートセンター 管理者 土井真理さん

平成12年度に介護保険制度がスタートしてから早8年。制度の要(かなめ)と位置づけられたケアマネジャーは、対象高齢者のくらしのアドバイザー、サービス機関の総合調整など、常に高齢者本人の立場で支援を展開しています。

ケアマネジャーは「人と人」をつなげ、高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、一人ひとりの生活に目を向けて支援しなければなりません。それ故に、本人が訴える課題のほかにも、様々な生活歴や価値観の違い、居住環境や家族関係、精神的状況などを客観的に捉えてプランニングすることが求められます。

対人援助のプロとして、日々、移り変わる制度や利用者ニーズを把握しながら、自らの専門性を最大限に発揮して支援が行えるように、自分の支援を検証し、常に専門性を向上させていく必要があります。高齢者の「くらし」に寄り添う専門職として、自分自身の価値観や支援態度を確認することは大切なことと言えます。

そこで、今回は「対人援助職の基本姿勢を振り返り、新たな視点に立って利用者の気持ちを感じ取る大切さ」を9月・10月の2回連続講座として学習する予定です。

この機会に、肩の力を抜いて支援の基本を再確認してみませんか。

平成20年9月9日(火)午後7時より 神栖市保健・福祉会館 2階 研修室

10月の勉強会もケアマネや対人援助職向けの内容を予定しております。内容については次号のネットワークニュースでお知らせします。

第130回
勉強会報告

みんなで遊んでみんなで育つ！ ～発達障害児と家族の支援を中心に～

NPO法人 コスモスの花 青山春美先生

参加者
67名



青山先生が公演中に何度も「支援者も親も笑顔！笑顔！」と表現していたとおり、楽しみながらの子育てにのびのびとした成長があることを、40年に渡り障害児とふれあいながら培ってきた経験と、多くの方との出会いから学ばれた体験談を交えて話してくださいました。

発達障害を抱えている子の多くは、数式や計算ができて、切符を買うことや出かけるのにかかる費用などをイメージすることが苦手なため、子どものころから『学びと体験』を結びつける支援をしていくことが大切です。

「発達のアンバランスはそれぞれ違います。一人ひとりを見つめること、思いを感じることでそれぞれの子の何が得意なのか、どこに困っているのかが分かり、支援することへの自信につながります」と障害や端的な見え方に偏ることなく、それぞれに違った支援が必要であることを再確認できる機会となりました。



障害者が作成した切り絵や陶器が展示されました